

日本災害医学会 D-EATs試行コース ～多職種での“災害時「食べる」連携研修会”～ 2026年8月30日(日) 高知県立大学 池キャンパス

日本災害医学会 災害時「食べる」連携委員会では、2024年度から、特に地域保健の観点からの災害時要配慮者に対する“災害時「食べる」連携研修会 (D-EATs)” 試行コースを、各地での関係者ととも開催してきています。

- * 試行コース2026は、10:00～16:00 (予定、裏面参照) としています。
- * 主に保健医療職や介護福祉職の方を対象としていますが、災害時の生活や食事の支援に関わる方なども歓迎です。興味がある方であれば、災害支援の経験などは問いません。
- * 試行コースへの参加費はありません。資料印刷費・参考書籍購入費、旅費 (交通費・宿泊費) 他への補助もありません。
- * グループごとに多職種で組むため、職能ごとの人数枠を設定しており、申し込み後に調整が必要となる場合もあるかもしれませんがご容赦ください。

参加申込は7月21日 (火) までとします。

<https://forms.gle/rvcswikZubmb8R449>

職能ごとの人数を調整する必要がありますので、職能によっては早めに締切となる場合もございますがご容赦ください。参加者確定後、受付フォームへの入力と事前動画の視聴をお願いします。



被災後の地域住民の、特に要配慮者の健康を維持するためには、多職種での“「食べる」支援”を通じた栄養や衛生の確保は大切です。よりよい地域における連携に向けて、お互いの体制や特徴を知り、学び合う場となり、かつ、ネットワークが構築されていく場となりえる研修会といたく、構築してきています。

保健所・保健センター、DHEAT

JMAT (日本医師会災害医療チーム)

医師、看護師、薬剤師など

DPAT (災害派遣精神医療チーム)

精神科医師、精神保健福祉士、公認心理師など

JDA-DAT (日本栄養士会
災害支援チーム)
管理栄養士など

食料・水
食企業、運送

JRAT (日本災害リハビリテーション支援協会)

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、など



「食べる」機能から
見た連携が必要

DWAT (災害福祉支援チーム)

社会福祉士、介護福祉士、
介護支援専門員など

居住環境 (調理環境、
食卓、食具、トイレなど)

災害支援ナース、NPOなど

JDAT (日本災害歯科支援チーム)

歯科医師・歯科衛生士など
(災害歯科保健医療連絡協議会)

日本災害医学会ニュースレター、
2022年11月号

特に、誤嚥性肺炎・フレイルの予防には、被災 直後からの “「食べる」支援” が重要

それぞれの“「食べる」支援” が連携して補いあって、はじめて 安全かつ適切に 栄養を確保しうる

問合せ：日本災害医学会 災害時「食べる」連携委員会

saigai.taberu@gmail.com

D-EATs（災害時「食べる」連携研修）標準コース 日程 試行コース2026 ver.

※ 事前に3時間程度の事前研修（オンデマンド動画）を修了することを参加要件としています

	9:30 ~ 10:00	受付
講義1	10:00 ~ 10:15	研修の目的・意義
	10:15 ~ 10:25	自己紹介
講義2 演習	10:25 ~ 10:45	災害食演習(準備)
講義3 演習	10:45 ~ 11:25	歯科からみた「食べる」評価／災害支援
講義4 演習	11:25 ~ 12:05	栄養からみた「食べる」評価／災害支援
	12:05 ~ 13:05	昼食(災害食演習(実食))
演習	13:05 ~ 13:15	災害食演習(実食)まとめ
講義5 演習	13:15 ~ 13:55	リハビリテーションからみた「食べる」評価／ICF演習
講義6 演習	13:55 ~ 14:40	災害時の「食べる」の多面的評価と連携
	14:40 ~ 14:50	休憩
総合質疑	14:50 ~ 15:00	総合質疑
	15:00 ~ 15:07	試験説明、試験
	15:07 ~ 15:10	試験解答・解説確認
意見交換	15:10 ~ 15:30	地域で多職種が連携して取り組む必要性と仕組みづくり
意見交換	15:30 ~ 15:50	各職能・組織における体制とこれから
	15:50 ~ 16:00	修了式、写真撮影

※ 昼食時間を避けて災害食演習を短縮し、「13:00～18:00」等で構築することも可能です
※ 保健医療行政、福祉、心理なども含めた加えた「完全版」は「10:00～17:30」となります

学習目標

- (1) 災害保健医療に関する基礎的な知識を習得する
- (2) 災害時対応の体制や活動原則を理解する
- (3) 多職種の視点からの災害時の「食べる」アセスメントを理解し習得する
- (4) 災害時「食べる」対応原則のEAT (Eating assessment, Alimentation support, Transdisciplinary care) を理解し実践する
- (5) 被災者の心理や背景に配慮し尊厳を守ったアプローチができる
- (6) 被災地域内の「食べる」の確保に関わる情報収集と評価ができる
- (7) 地域の保健医療福祉連携会議のもとで他職種と連携できる

委員会メンバー

中久木康一（歯科医師、東北大学）、坪山宜代（管理栄養士、防衛装備庁防衛イノベーション科学技術研究所）、梅原健（言語聴覚士、国立病院機構三重中央医療センター）、原田奈穂子（看護師・保健師、岡山大学）、笠松信幸（ケアマネジャー、日本介護支援専門員協会）、奥田博子（保健師、国立保健医療科学院）、服部希世子（医師、熊本県）、市川学（芝浦工業大学）、河鳥譲（医師、DPAT事務局）、前田圭介（医師、愛知医科大学栄養治療支援センター）、江川孝（薬剤師、福岡大学）、池田美樹（臨床心理士・公認心理師、桜美林大学）、原田浩美（言語聴覚士、東京工科大学）、島田郁子（管理栄養士、高知県立大学）、藤岡正行（言語聴覚士、高岡市民病院リハビリテーション科）、山口祐介（管理栄養士、愛野ありあけ病院）、高山はるか（管理栄養士、聖路加国際病院）、向井須美（管理栄養士、公立陶生病院）、門井謙典（歯科医師、兵庫医科大学）、木村欣司（言語聴覚士、多摩リハビリテーション学院専門学校）